

58 アスパラガス

A 栽培管理カレンダー

月 旬	2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
作型	促成・半促成	●被覆トンネル																										
	トンネル早熟							●トンネル			■収穫期																	
	露地													■収穫期														
除草剤 施用時期	トンネル・露地 *各作型共通 ○(萌芽前もしくは収穫打ち切り後)																											
主要 病害 発生 時期	斑点病																											
	茎枯病																											
	ゲビナガハムシ幼虫																											
	ヨトウガ幼虫																											
	ほ場観察(多雨に注意)																											

【凡例】 作型図 ●被覆・トンネル、■収穫、▲その他栽培管理法等
 主要病害発生時期図：——発生時期、○基幹防除時期、(○)臨機防除時期、▲発生状況調査等 (○内数字は成分数)
 ◎同時防除(同一薬剤で複数の病害虫を対象) (◆)条件付き防除
 注)各作型の月旬は道央地帯を主としているので、道南、道東北地帯は前後する。

B 主なクリーン農業技術の概要

(1) 土づくり

- 基盤整備
 - ・排水対策の実施
- 有機物の施用
 - ・たい肥(ハウス4 t/10a、露地2 t/10a) 施用を基本とした土づくり
(たい肥は表面に散布するか、数年分まとめて畝間にすき込み)

(2) 施肥管理

- 土壌診断による施肥の適正化
 - ・土壌診断を行い、その結果を活用した「施肥対応」等による適正施肥
- 有機物の肥料評価による施肥の適正化
 - ・有機物由来窒素の評価による施肥窒素削減

(3) 雑草の防除

- 種草取りによる翌年の雑草発生量抑制
- 優先雑草に合わせ除草剤を適正使用

(4) 病害虫の防除

- 発生モニタリングによる効率的防除
 - ・発病度12.5を目安とした斑点病の防除開始時期決定
- 耕種的防除
 - ・斑点病対策として、品種間差を考慮した斑点病抵抗性品種の選定
 - ・汚染源となる前年茎葉のほ場外持ち出し処分
 - ・過繁茂防止のための刈り込み(トップピング)
- 物理的防除
 - ・ハウス栽培および雨よけ栽培における近紫外線カットフィルムの利用による斑点病およびネギアザミウマ被害の軽減
 - ・ハウス栽培における光反射資材の利用によるネギアザミウマ被害の軽減

(5) 植物成長調整剤の使用

使用しない。

C 栽培に当たっての留意事項

○倒伏防止措置は必ず行うこと。

D 栽培に当たっての禁止事項

なし

E 肥料及び化学肥料の使用基準

分類	慣行	使用基準			
	化学肥料施用量 (kg/10a)	総窒素施用量 (上限値、kg/10a)	たい肥等施用量 (下限値、t/10a)	化学肥料施用量 (上限値、kg/10a)	たい肥施用量 (上限値、t/10a)
露地	27.0	25.0	2.0	18.0	3.0
ハウス	27.0	25.0	4.0	14.0	-
立茎露地	50.0	48.0	2.0	43.0	3.0
立茎ハウス	50.0	50.0	4.0	39.0	-

- 注1 窒素肥沃度水準「低」の場合の基準である。
ただし、化学肥料施用量は窒素肥沃度水準「中」の基準を上限とする。
- 注2 たい肥 1 t 当たりの窒素換算量は露地が 1 kg、ハウスが 1.5 kg とする。ここでのたい肥とは、「牛ふん麦稈たい肥」、「牛ふん敷料たい肥」を指す。
- 注3 施設野菜において、ふん尿割合の高いたい肥を利用する場合には 1 t 当たりの窒素換算量を 2 kg とする。
- 注4 たい肥等施用量下限値は、たい肥に相当する有機物での対応も認めるものとする。
- 注5 たい肥施用量は数年間（3～5年程度）の平均値も認めるが、露地の場合は 1 年間の施用量が 5 t を超えないものとする。
- 注6 露地の場合のたい肥施用量上限値は「牛ふん麦稈たい肥」、「牛ふん敷料たい肥」を施用した場合にのみ適用するものとする。
- 注7 トレンチャーで施用する場合はたい肥等施用量上限値を適用しないものとする。
- 注8 立茎栽培とホワイトアスパラガスは含まない。

F 化学合成農薬の使用基準

(単位：成分使用回数)

作型	慣行						使用基準												
	殺菌剤		殺虫剤	殺菌剤	除草剤	植調剤	計	殺菌剤		殺虫剤		除草剤		植調剤		計			
	(種子消毒)	殺菌剤						基幹	臨機	基幹	臨機	基幹	臨機	基幹	臨機	基幹	臨機	合計	
ハウス、トンネル、露地	6	—	3	0	2	0	11	3	—	2	0	3	2	0	0	0	5	5	10
立茎ハウス	7	—	7	0	2	0	16	2	—	0	0	6	0	0	0	0	2	6	8
立茎露地	6	—	7	0	2	0	15	4	—	0	0	4	1	0	0	0	5	4	9

- 注1 使用基準は剤別（殺菌剤・殺虫剤・除草剤・植物成長調整剤）及び基幹・臨機防除別に記載
基幹防除：平均的な病害虫の発生状態を考慮した場合、ほぼ毎年行う必要がある防除
臨機防除：突発的な病害虫の発生や、地域や品種により発生状態が異なる病害虫に対して行う防除
- 注2 種子消毒は殺菌剤の内数とする。
- 注3 生産集団の栽培基準における化学合成農薬の使用回数は、使用基準の合計回数を下回るものとする。
- 注4 使用基準における化学合成農薬の剤別の使用回数は、地域の栽培実態に合わせ変動して差し支えない。

【参考：作型（地域別）】

作型	道央地域						道南地域						道東・道北地域					
	は種期		定植期		収穫期		は種期		定植期		収穫期		は種期		定植期		収穫期	
	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終
ハウス、トンネル、露地立茎（ハウス・露地）	-	-	-	-	3/15	7/10	-	-	-	-	3/10	7/10	-	-	-	-	3/20	7/10
	-	-	-	-	4/5	9/25	-	-	-	-	3/20	9/30	-	-	-	-	4/10	9/20

注1 道央地域：石狩、後志、空知、胆振、日高管内とする。

道南地域：渡島、檜山管内とする。

道東・道北地域：上川、留萌、十勝、網走、釧路、根室管内とする。

注2 作型は地域別の平均的な昨期を示したものであり、地域の栽培実態により当該期間が前後する場合があります。

G 注釈

●たい肥等有機物施用量上限値は、数年間（3～5年程度）の平均値も認めるが、1年間の施用量が5tを超えないものとする。例えば、2年に1回たい肥を施用する場合は、1回に5t施用することができる。3年に1回施用する場合でも、1回に6tを施用することはできない。

●土壌診断による施肥の適正化

露地栽培では生土培養窒素または熱水抽出性窒素の分析（3年以内）、ハウス栽培では硝酸態窒素の分析（1年以内）を行い、窒素肥沃度に応じた施肥を行う。

●発病度12.5を目安とした斑点病の防除開始時期決定

斑点病の薬剤散布開始期の目安は、発病度で12.5（主茎に病斑が散見）の時である。グリーンアスパラガスの収穫圃場ではおおよそ8月中旬頃に相当する。

●斑点病対策として、品種間差を考慮した斑点病抵抗性品種の選定

	A 群	B 群	C 群	D 群	E 群
品種・系統	ガインリム ウエンリム バックリム テイーリム	カーリム ホーリム フルート KJ1610 エリート フランクリム	ウエルカム ハイトル グリーンタワー シャワー ポールランド キャントブル ナイヤカ [®] ラコールト [®]	雄次郎 北大65×19 月交2号、 ズイユウ、 北海100 KJ1611	メリーワシントン500W UC157 UC800 ポールトム
収量(kg/10a)	480～640	420～540	400～500	320～450	300～430
Lサイズ以上(%)	60	34	40	25	30
生育指数(GI)	10,000	10,000	8,000	7,600	8,200
欠株率(%)	1	5	10	10	10
耐病性	斑点病強	斑点病やや強		斑点病強	
頭部のしまり	中程度	やや不良	良	中程度	良
アントシアニン着色	基部着色	強	弱	やや強	弱
内部品質	Brix値高	ビタミンC含量中		ビタミンC含量多	

(平成14年度指導参考事項 花・野菜技術センター)

●倒伏防止措置は必ず行うこと

- ・過繁茂防止のための刈り込み（トップング）
- ・フラワーネット、ポリエチレンテープ2段式もしくは市販倒伏防止具を利用する。

●近紫外線カットフィルムの利用による斑点病およびネギアザミウマ対策

- ・ハウス栽培および雨よけ栽培においては、近紫外線カットフィルムの利用により斑点病とネギアザミウマの被害を抑制できる。ただし、斑点病に対する抑制効果は使用2年目までしか期待できないので注意する。

●光反射資材の利用によるネギアザミウマ対策

- ・ハウス栽培において、光反射資材（タイベックなどの光の反射率が高いもの）をハウス側面の地面に敷設すると、ハウス内へのネギアザミウマの侵入を抑制できる。ただし、表面が汚れて光反射率が低下すると効果も低下するので注意する。